

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、4.0版) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東区葵一丁目計画 新築工事	階数	20
建設地	愛知県名古屋市東区葵一丁目101, 104, 105-1	構造	RC造
用途地域	一種住居地域、防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2022年7月20日
敷地面積	1,431 m ²	作成者	
建築面積	705 m ²	確認日	2022年7月21日
延床面積	10,990 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.5 ★★★★★☆

☆:S:★★★★★ A:★★★★☆ B:★★★☆☆ B-:★★☆☆☆ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	94%
③上記+②以外の	94%
④上記+	94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	3.5
温熱環境	3.7
光・視環境	2.9
空気質環境	4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

機能性	3.6
耐用性	2.9
対応性	2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性	3.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.2
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

水資源	3.4
非再生材料の	3.4
汚染物質	3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.2
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 周辺環境に配慮するとともに、建物形状や色彩が周辺環境と調和するように計画する。		その他 特になし
Q1 室内環境 室内環境向上を目指し、F☆☆☆☆建材を使用する。	Q2 サービス性能 耐久性に優れた建物を計画する。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を豊富に計画し、良好な住環境の形成に配慮する。
LR1 エネルギー ・日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を取得予定。	LR2 資源・マテリアル ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ・有害物を含まない建材を使用している。	LR3 敷地外環境 ・適切な駐車スペースを確保しています。 ・LCCO ₂ の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)東区葵一丁目計画 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。